



高松市で1日、第95回香川県メーデー集会が開かれ、各団体からの訴えやデモ行進などが行われ、労働組合と政党・民主団体56団体、約200人が参加しました。

香川県労連議長は「歴代政権が財界などの要求を受け、30年間賃金が上がらない国になったが、労働者や組合が声をあげ政治の変革を勝ち取るこ

第95回香川県メーデー集会



定価 月 100円
発行所 民主香川社
高松市藤塚町3丁目13-14
☎(087)834-7311

採択されたメーデー宣言では、岸田政権はアメリカとともに戦争をする国へ向かい大軍拡・大増税に取り組んでいるが、ASEANのような平和のための外交努力が必要で、軍事費を増やすのではなく、労働者・国民の命と暮らしを守る社会保障の充実などが訴えられました。

平和憲法を生かす香川県民の会 総会と記念講演会

生かそう憲法！守ろう9条！

高松市で3日、共産党県委員会、立件民主党県連、社民党県連、市民団体など県内163団体でつくる、平和憲法を生かす香川県民の会は第23回総会と、ジャーナリストの浜田敬子氏を招き、「ジェンダー後進国から抜け出すために、地域から社会を変える」というテーマで記念講演会を開き、約350人が参加しました。

浜田氏は、ジェンターギャップのランキングや、男女賃金格差、正規、非正規の問題などを紹介しました。「日本は多様性とは真逆で、政治や経済分野などで男権優位のヒエラルキー



をつくり、同質性の高い男性の集団が国会や地方政治、会社などでも権力や権威を持っている」と指摘。

「世界ではクォーター制度など女性の権利擁護が義務化されジェンターギャップの解消が進む一方、日本ではいまだに性別役割分業などの差別意識が残り、男性の身分やポストを守ることが重視され、女性が意思決定層に少数しか存在しないことで、女性や子どもの貧困問題や国の外的な少子化対策などにつながり、課題解決を妨げている」と解説しました。

「世界ではクォーター制度など女性の権利擁護が義務化されジェンターギャップの解消が進む一方、日本ではいまだに性別役割分業などの差別意識が残り、男性の身分やポストを守ることが重視され、女性が意思決定層に少数しか存在しないことで、女性や子どもの貧困問題や国の外的な少子化対策などにつながり、課題解決を妨げている」と解説しました。

愚台教太

今年95回香川県メーデーは屋内集会に決めたという中で中々先見だ

▼私は、開会前「香退教ハフォ

「マンソール」コロナ禍の学校で奪われたものの「一枚のパネルを掲げて参加した。パネルの数は昨年より少なかったものの安倍首相の休校措置の強行によって、①学習中の話し合いが限定的に②遊びの中のじゃれ合いや③学級内や異学年間の協力などが奪われ、子どもたちは大声を出さないこと、やりたいことも我慢する、静かに行動することが強制されるなど『子どもらしく振る舞うことが否定され、学校が子どもが子ども時代を生きる保障の場であることを阻害され、今日まで様々な障害が生じている実態を告発し、アメリカ言いなりの軍拡7・9兆円もの予算をやめて教育に回せ、『憲法9条を守って、平和な日本をめざしていこうと訴えるものになった』久しぶりの高松なので県立ミュージアムにも寄り、伊藤若冲の襖絵「百花の図」や宗達の「猛虎」の展示も鑑賞した。私にとっては、闘いと文化豊かな満足のいく一日となった。(も)

地球の息吹⑤

瀬戸海 大地

香川県内では18の伝承碑が地理院地図に掲載されている。6基は小豆島町にあり、内5基は1976年9月の台風十七号による

水害関連碑である。馬木にある「やすらぎの塔」には、1971年、74年、76年と十年間に3度も大水害を経験し、特に74年台風8号では、旧内海町内各所で大規模な土石流、河川氾濫、家屋の流失等が発生し、死者29名を出すなどの大災害となったことが伝承されている。



「本源的蓄積期」は、なりふりかまわず資本(元手)を溜め込むことによって資本家層が生まれる一方で、土地から引き離された農民や没落した手工業者などを中心として労働者層(生産手段を持たない人たちが)が形成されて行った時代でした。そして、この資本家階級と労働者階級との存在を背景とし、18世紀末からイギリスで始まった産業革命と機械制大工業の発展によって出現したのが「産業資本」です。産業資本は、従前からの「商業資本」や「高利貸資本」とは異なり、物質的財貨を生産するプロセスをその内部に持つ資本ですが、「産業資本主義」段階はその成立

と発展の時代でした。それは、大企業や独占に至る前の育ちざかりの資本主義であると同時に、封建制度を打破した市民革命の自由権的思想の下で、自由競争とそれに基づく自立・自助が人間とその社会の原理として定着していった時期でもあり、そのころが困窮者に対する援助の在り方にも大きな影響を与えました。



※「労働者の自主共済」と「慈善」については次回触れます。

自然災害伝承碑とは、過去に発生した自然災害の様相や被害状況等が記載されている石碑やモニメントのことである。

これらのはは被災場所に建てられていることも多く、地形図に掲載することにより地域の住民へ適切に伝承することと合わせて、地理情報と合わせることで的確な防災行動による被害の軽減を目指すことが目的とされている。



今回は、「資本主義」のそれぞれの発展段階における「社会保障」の変化と特徴について、前回の「本源的蓄積期」に続く「産業資本主義の時代」を見ていくことにします。

2「産業資本主義段階の社会保障」
1「産業資本主義時代の幕開け」若々しい資本主義と自由放任主義(レッセ・フェール)の時代

をさせてはならない、という原則」を打ち出したのですが、救済対象の限定や劣等処遇は、貧困や窮乏を個人の責任とし、救済を自助の失敗に対する懲罰やみせしめとするもので、まさに産業資本主義の時代の「自立自助」と「自己責任」の精神を直接反映するものでした。

これからの社会保障を考える 高齢化、人口減少、そして 「大軍拡」の流れの中で ⑪ 社会保障のあり方について考える会 準備会 藤井明